

特別養護老人ホームにおける食事サービス調査 調査結果

令和7年11月

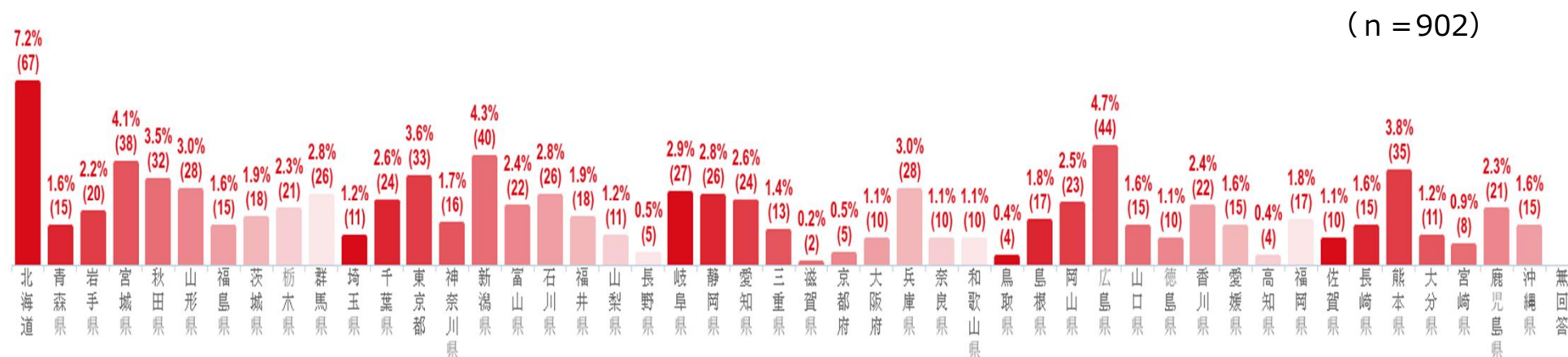
公益社団法人全国老人福祉施設協議会

全国老施協「特別養護老人ホームにおける食事サービス調査」

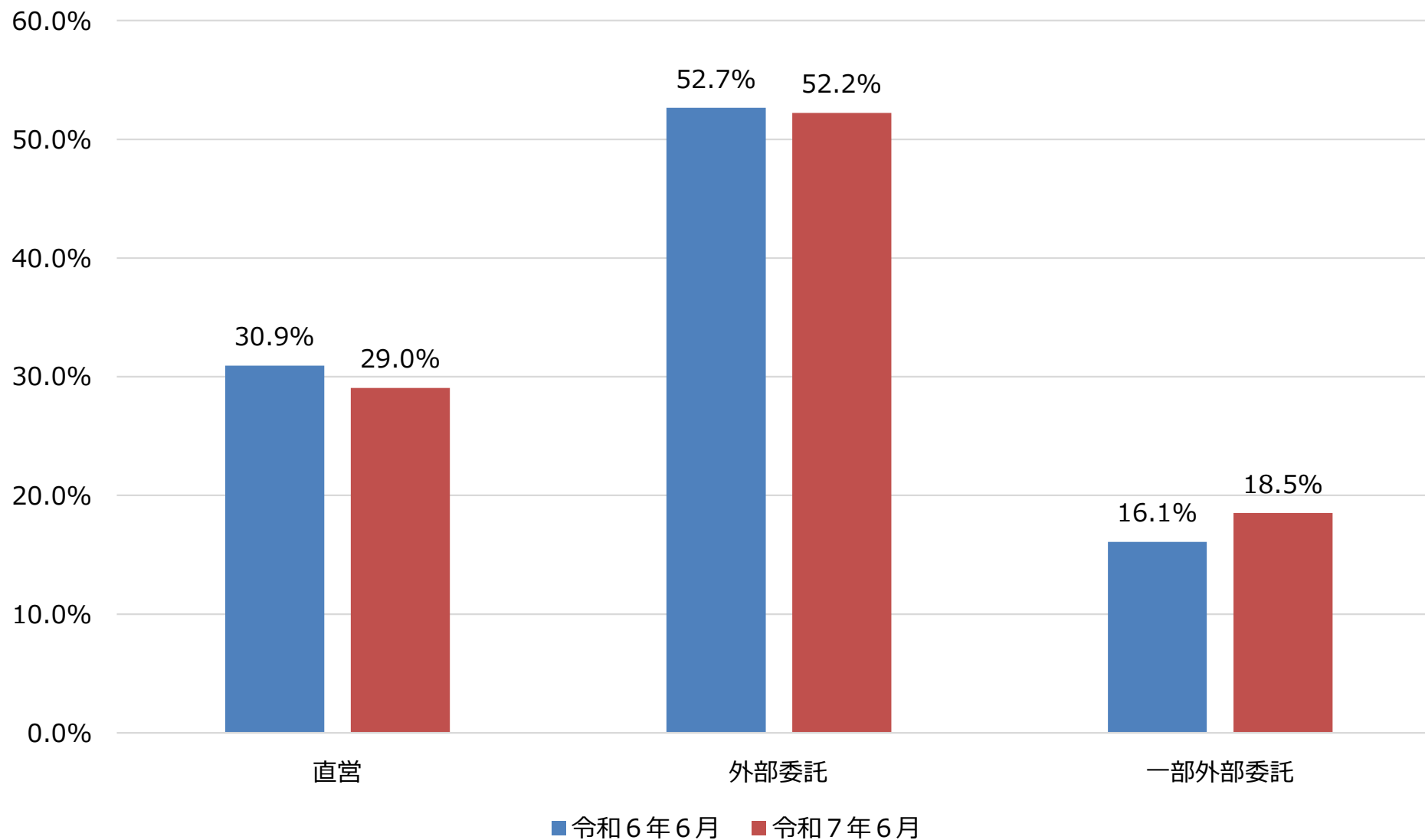
- 特別養護老人ホームにおける食事の質について、昨今の食材料費の高騰が利用者に与えた変化・影響等について、政策提言に向けたエビデンスを作るために実施。

調査期間	9/16（火）～10/3（金）
調査方法	Web調査（Questant）
調査対象	本会会員の特別養護老人ホーム（悉皆調査）
回答者	（管理）栄養士
回答数/調査対象	902/4,734（回答率19.1%）
有効回答数	902

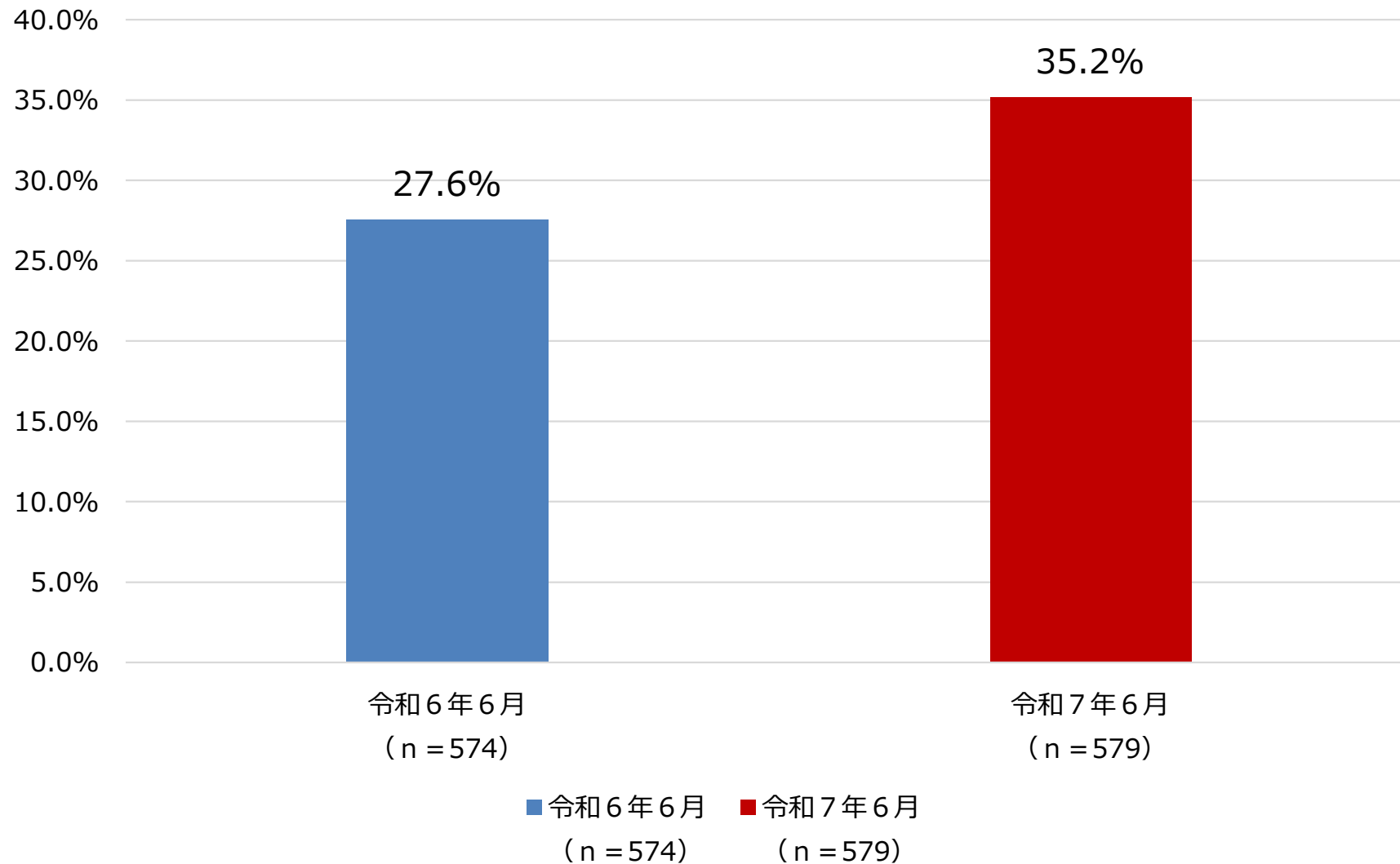
都道府県別の回答状況



(n = 902)

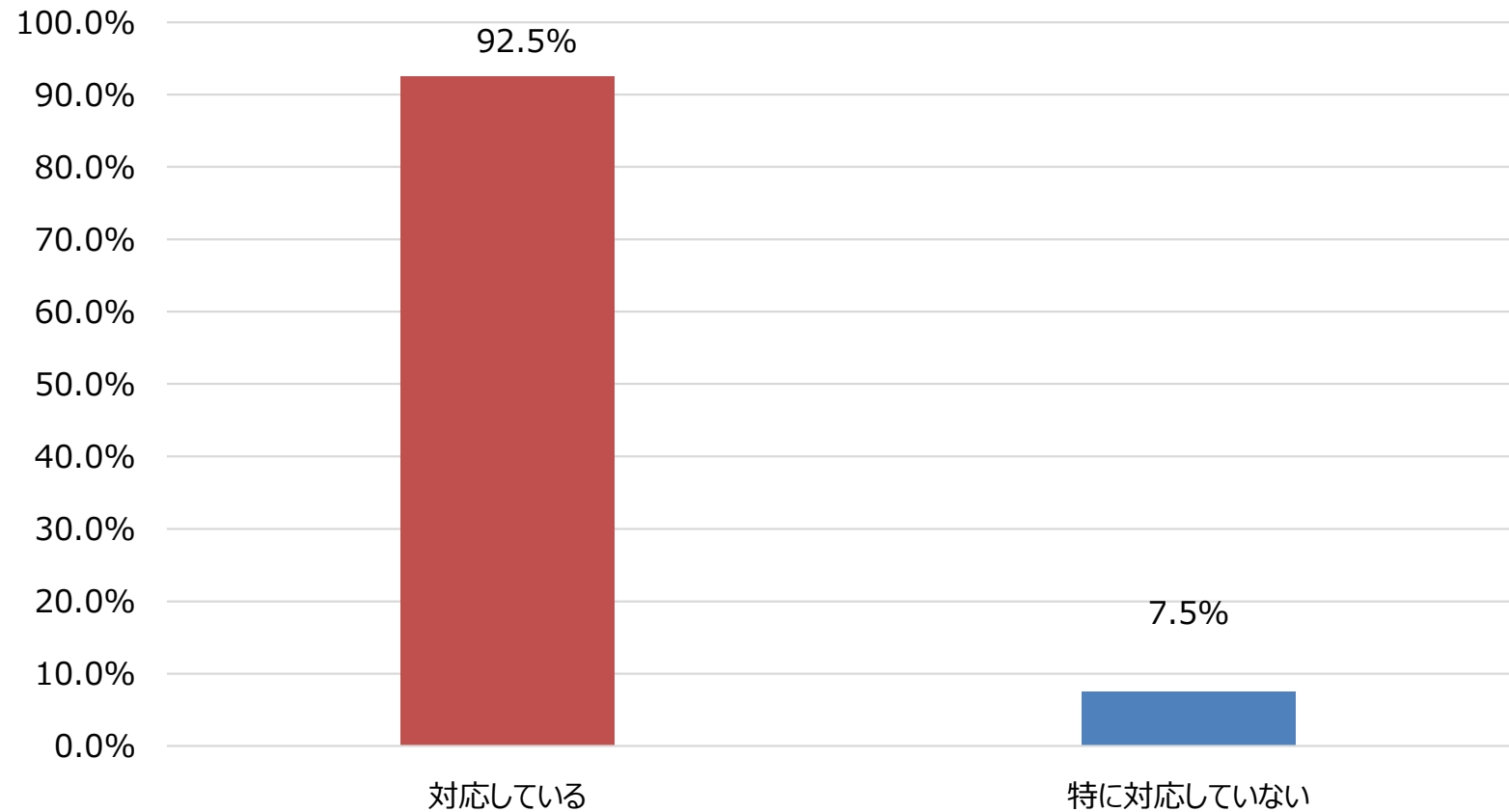


委託のセントラルキッチン方式での実施の有無



食材料費高騰に対する、施設での取組状況の有無

(n = 902)

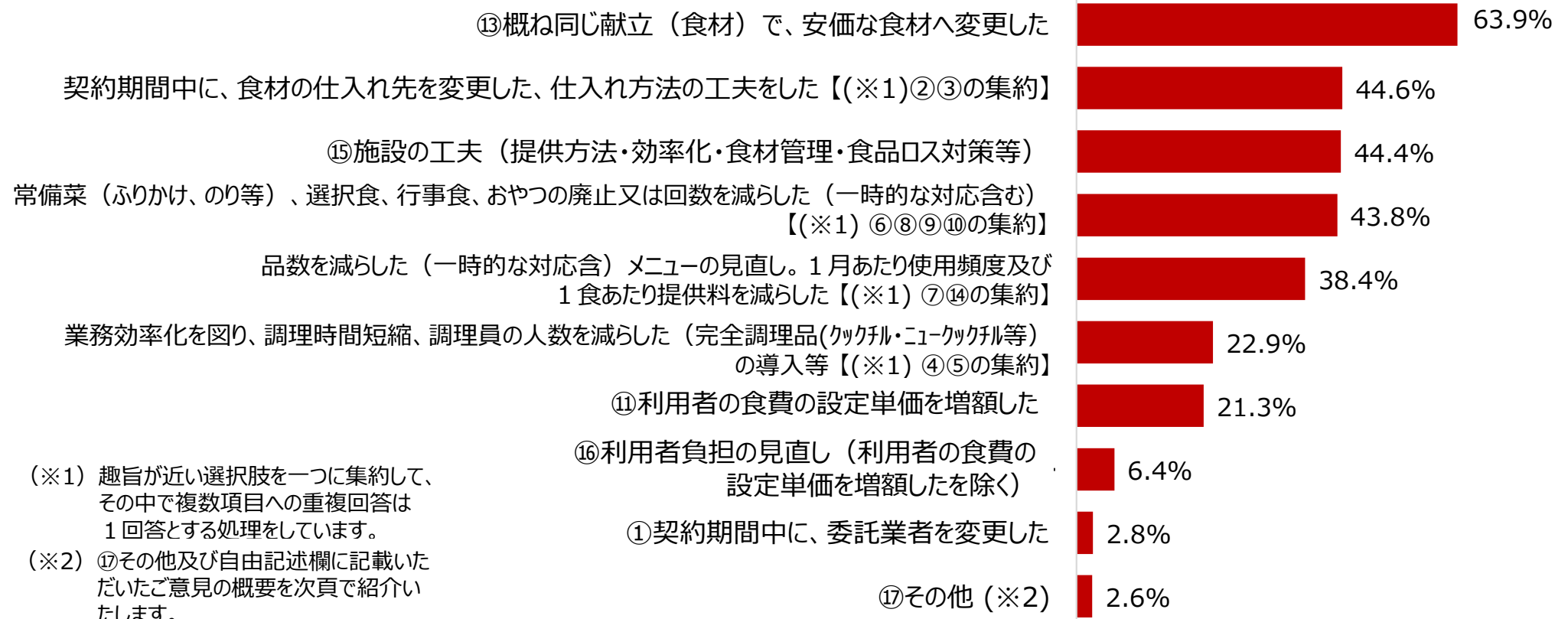


食材料費高騰に対する施設の取組（対応している施設）①

- 回答が多い項目から見ると、安価な食材の変更63.9%、仕入れ先・方法の工夫44.6%、施設での提供方法等の工夫44.4%など、多くの施設では利用者への影響が少ない取組で対応していることが伺える。
- しかし、廃止又は回数を減らした（一時的な対応含む）（43.8%）、品数や提供量を減らした（一時的な対応含む）（38.4%）といった食事の質や量に影響する対応をせざるを得ない現状になっていることが伺える。

食材料費高騰に対する施設の取組（対応している施設）（n = 835）

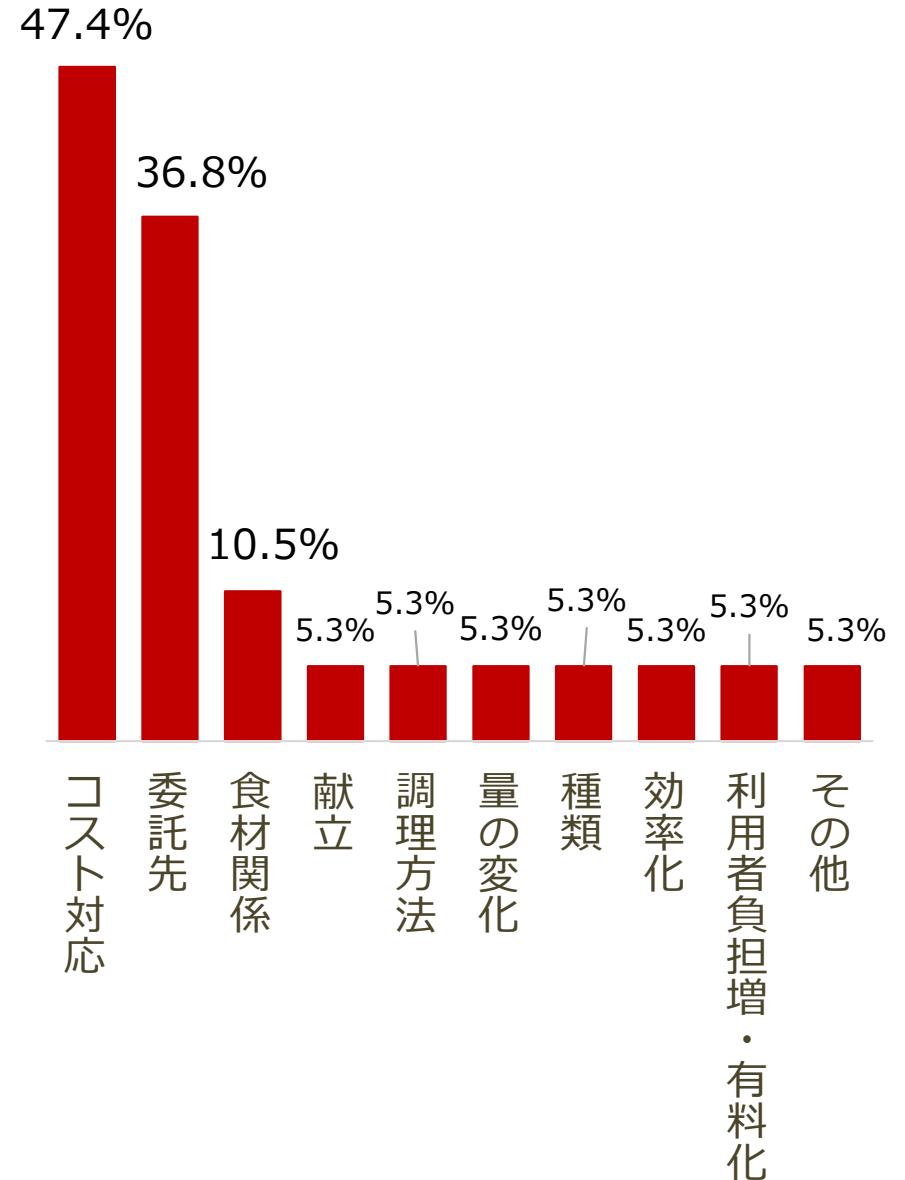
（複数回答）

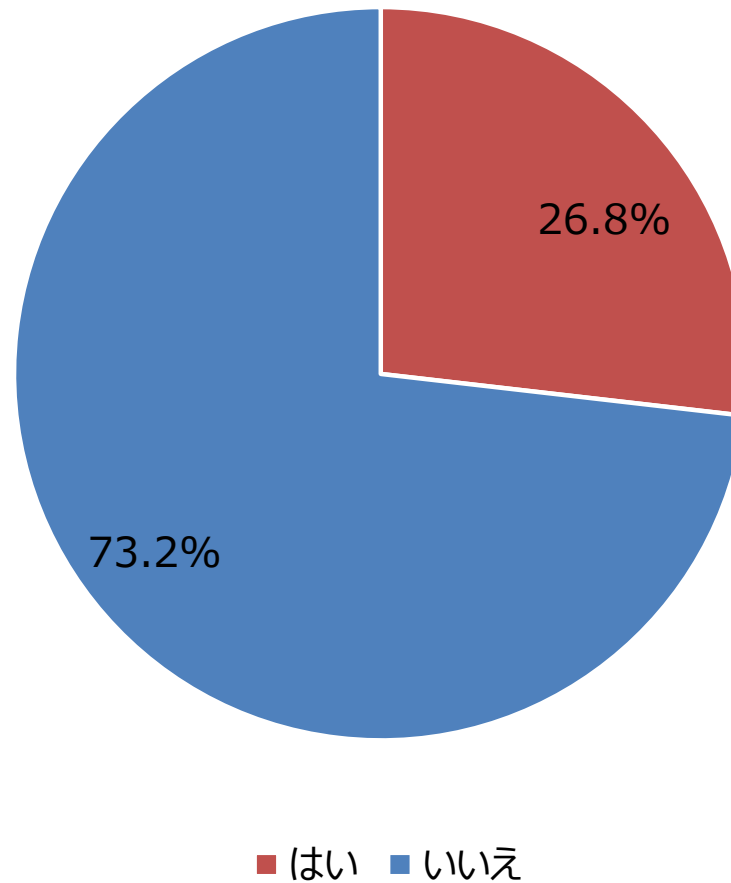


食材料費高騰に対する施設の取組（対応している施設） ②

その他及び自由記述欄に記載いただいたご意見の概要（n=79）

<p>コスト対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食費の値上げ分を施設負担にした。 お米代として10kgあたり¥2,276増額した。 行事食が食費内で収まらず、施設で不足金額を負担する回数が増えた。
<p>委託先</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同等食品の物をすべての業者と見比べ一番安価の業者へ依頼を移行した。 野菜等発注後に通常より高価になる場合は業者に連絡もらうようにし、食材の変更を行うようにした。 令和7年1月に完全委託の給食会社から撤退の申出を受け、クックチルを使った委託、直営でニュークックチル導入への変更を余儀なくされた。
<p>食材関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生野菜から冷凍野菜への変更、米は国産米→国産ブレンド米→外国産米へ安価なものへ変更、魚や肉の使用頻度を減らし、その分卵や大豆製品の使用頻度を増やした。 朝の惣菜の高いものは内容を変える、量の見直し。 以前よりも一品あたりの量が少なくなり、食材の種類も減ったように感じる。マヨネーズ等少量でエネルギーの高いものの使用頻度が増えた。
<p>利用者負担等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 常備菜など嗜好に伴う物は個人負担にした。 アレルギー、医者への指示以外の好き嫌いによる代替品の提供は有料とした。 朝食の牛乳を献立に組み込むことをやめ、希望者は個人負担で飲用とした。 余ったパンやおやつを職員に半額程度で販売し始めた。





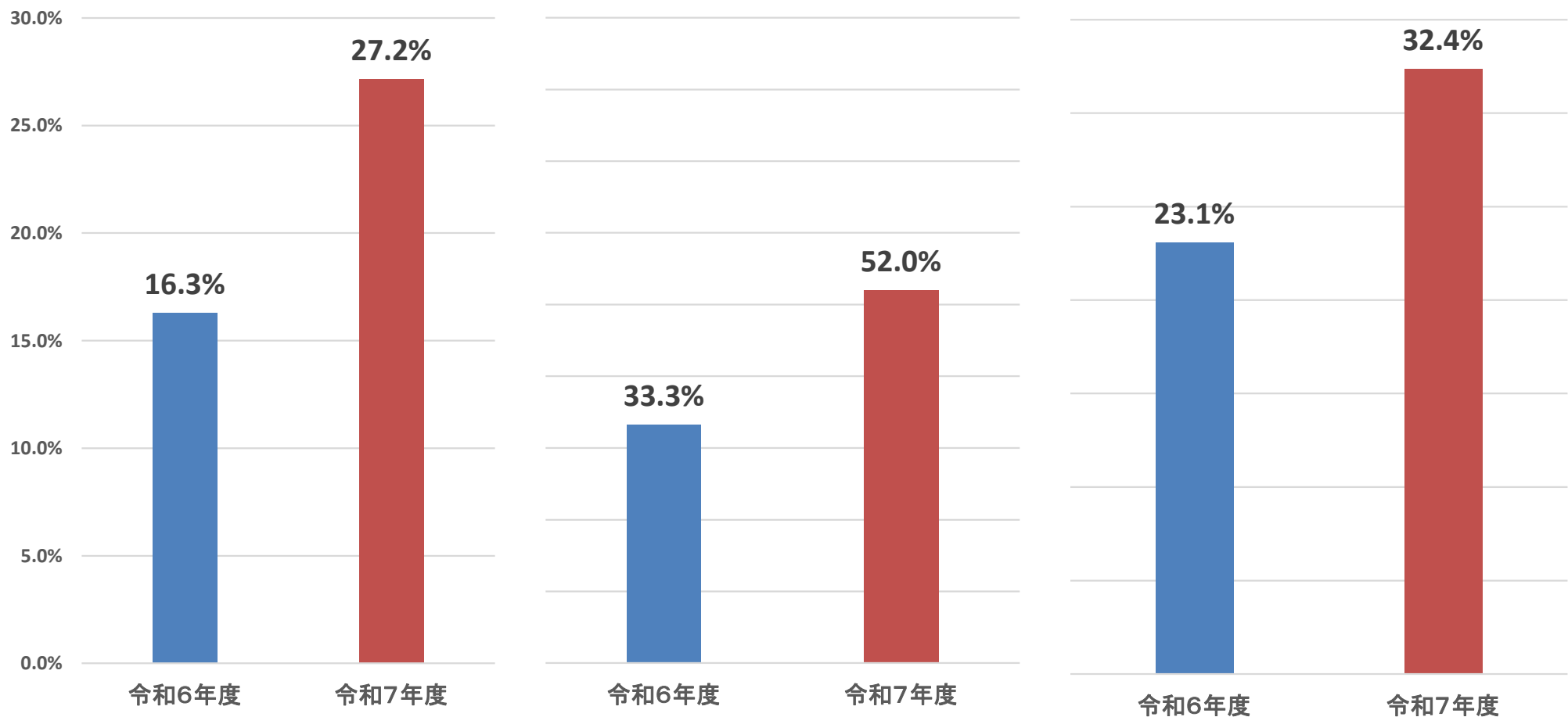
同じ栄養価での安価な食材への変更の有無（変更した施設）

(n = 902)

主食

副食

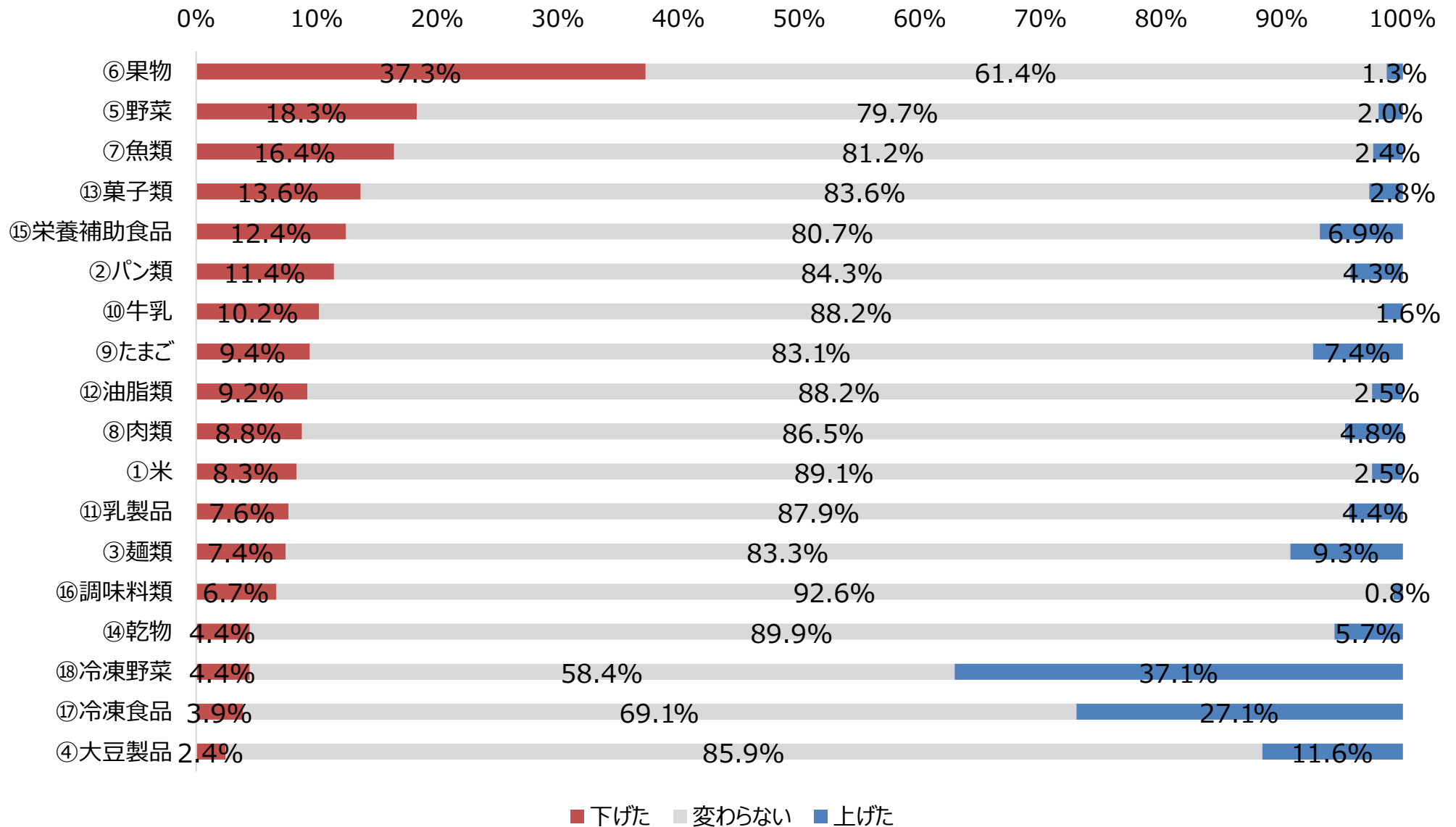
おやつ



出典：全国老施協「特別養護老人ホームにおける食事サービス調査」（令和6年調査と令和7年調査との比較）

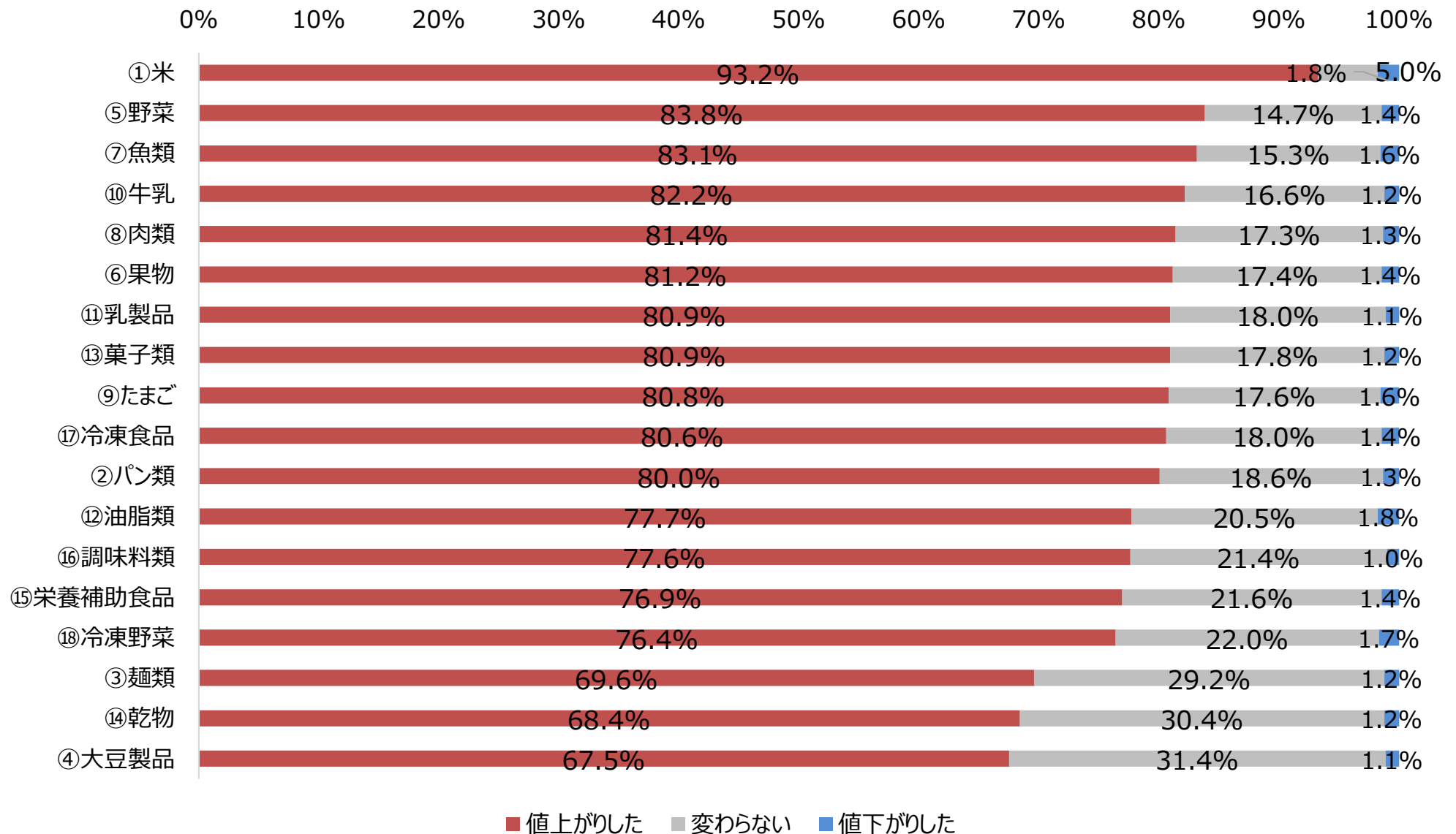
食材の使用頻度の変化

(n = 902)



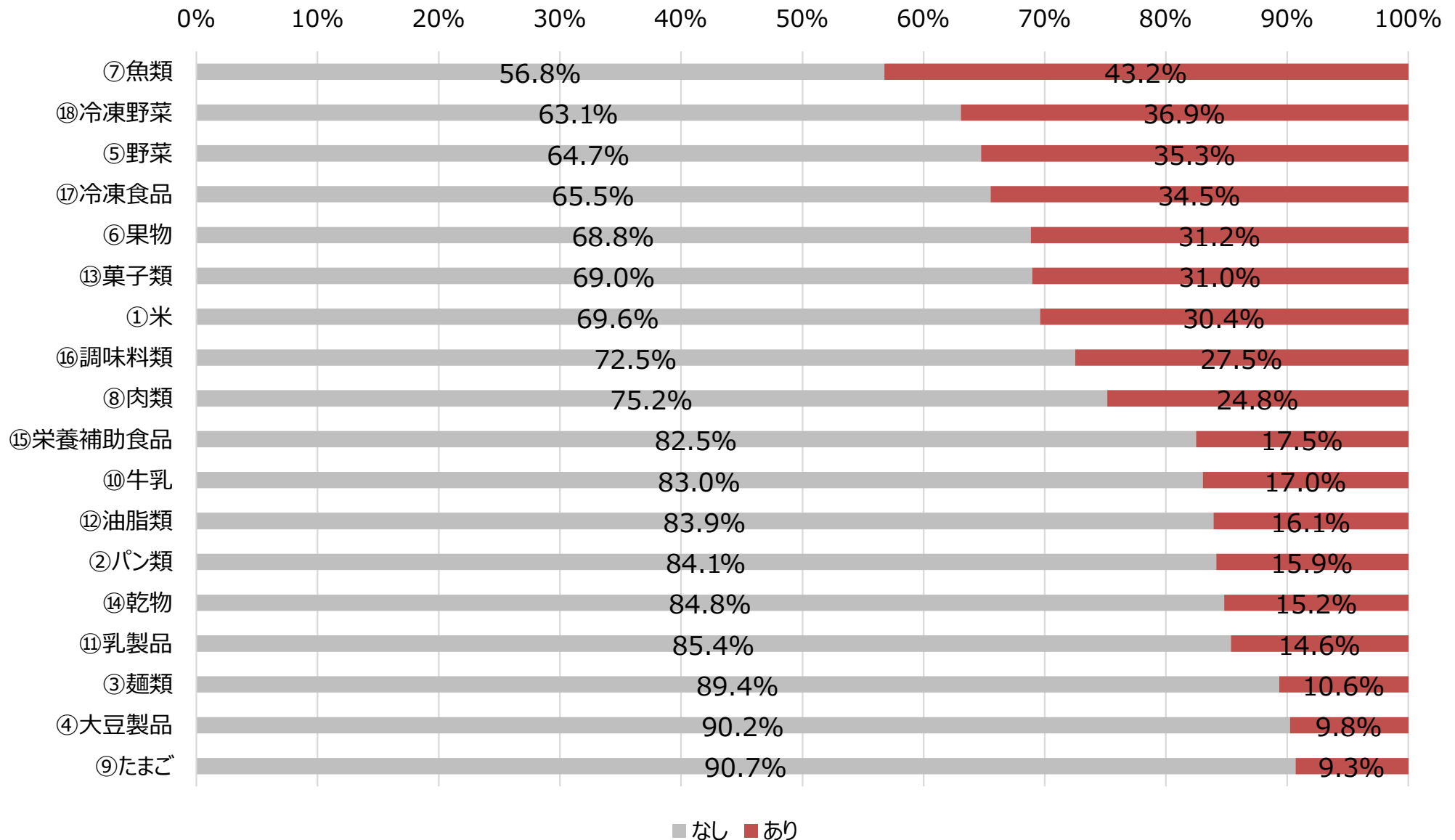
食材の価格の変化

(n = 902)

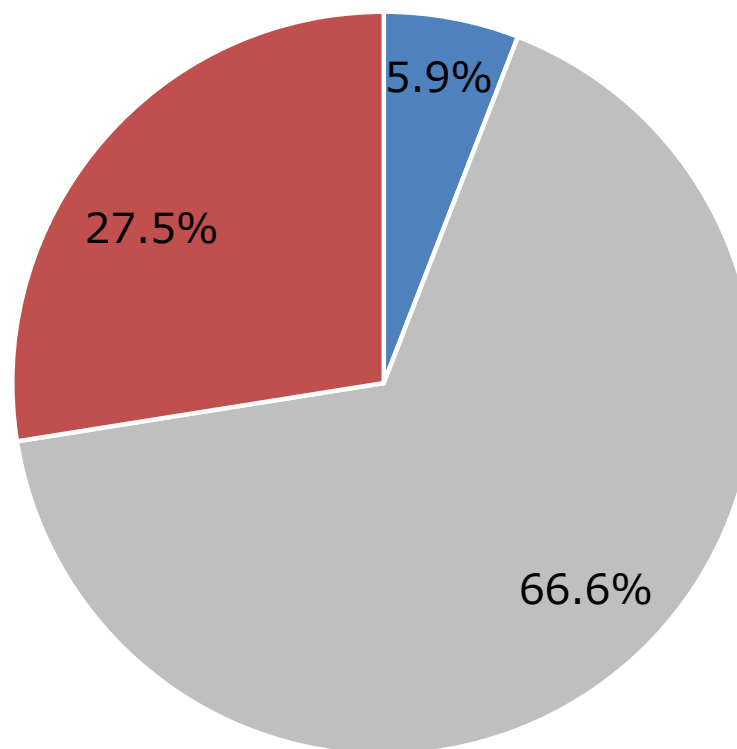


食材の銘柄または代替品への変更の有無

(n = 902)



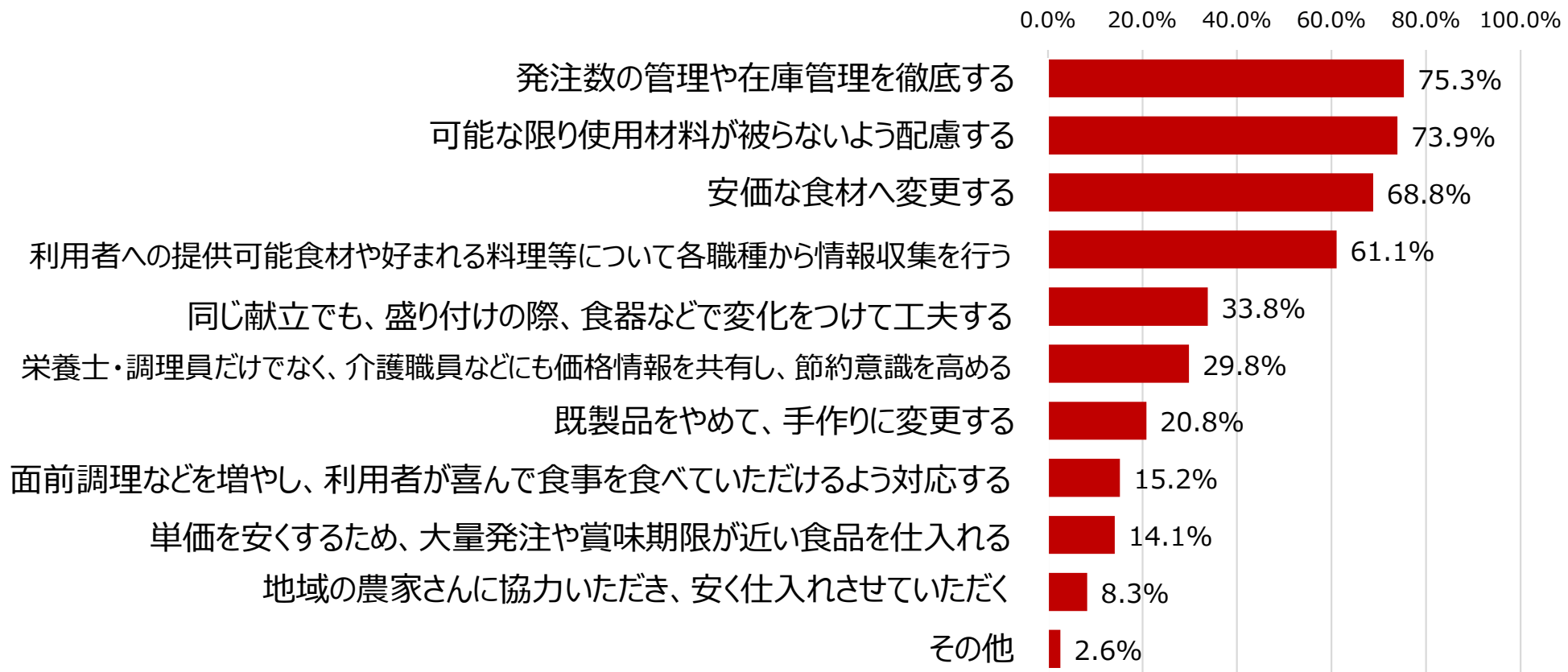
(n = 902)



■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った

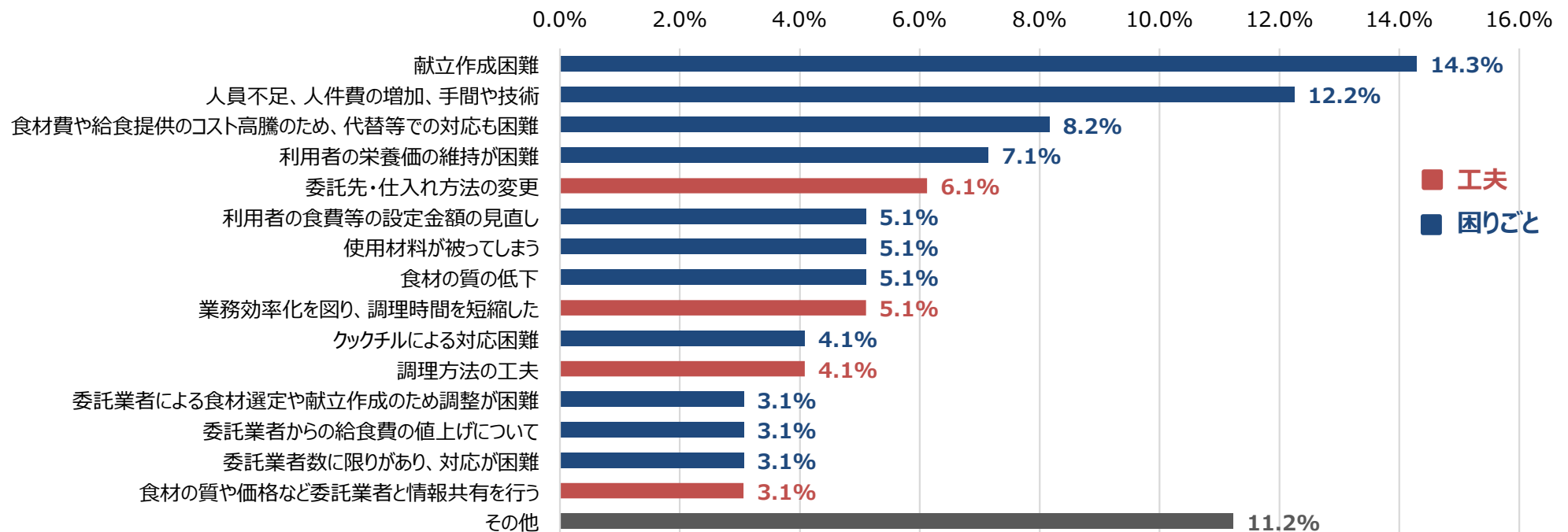
- 発注数の管理や在庫管理の徹底が75.3%と最も多く、献立や使用材料等に配慮するとともに、多職種と連携して利用者に好まれる料理の提供に努めている回答が多いことから、これまでの食事サービス（質や量）の継続に向けが取組をしていることが伺える。
- 一方で、少ない職員体制の中でさまざま工夫を実践することで、業務量増加への懸念の意見もあった。

食材料費高騰に対する施設の取組（対応している施設）（n = 879）（複数回答）



その他及び自由記述欄に記載いただいたご意見の概要 (n=124)

(複数回答)



工夫

業務効率化を図り、調理時間を短縮した

- 朝食メニューでは禁食をあまり作らなくてよいメニューを採用。
- 主菜で付け合わせがあるものに偏らない。偏りがでて、茹でる、蒸すが多くならないようにしている。

調理方法の工夫

- 生野菜の場合大きさによって発注量より多い場合は、残った物をみそ汁の具として使用したり、選択メニューで残ってしまった食材は、ミキサー食や代替え食に使用してフードロスを防いでいる。

困りごと

献立作成が困難

- なるべく安い食材を使用するようにしていますが、栄養量も減ってしまい献立作成に苦慮している。
- 安価な白身魚に偏り、カロリーUPに調理法を工夫すると脂肪エネルギー比が高くなり困っている。

代替等での対応も困難

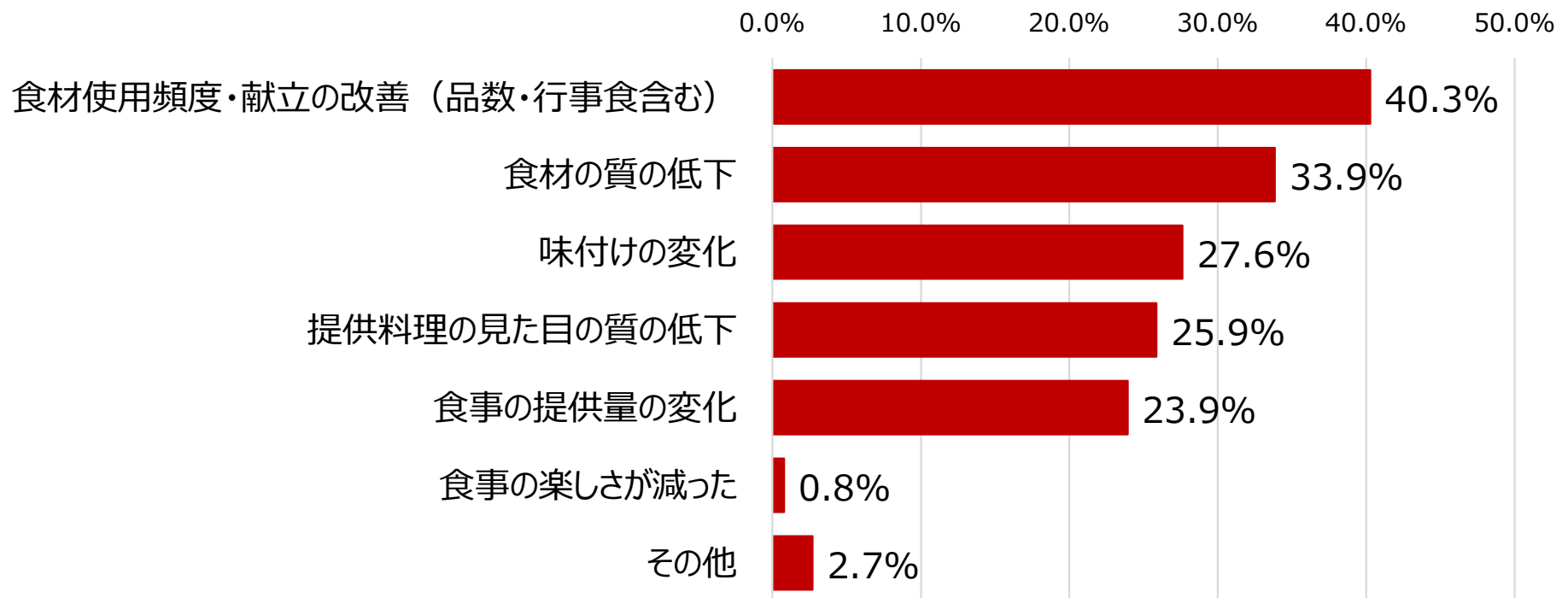
- 様々工夫しても食材だけでなく、消耗品や食器類、機器修繕費などもすべてが高騰しているので、抑える事に限界を感じる。

- 利用者及びご家族からのご意見・ご相談・苦情をみると、「食材の使用頻度・献立の改善（品数・行事食含む）」が40.3%、「食材の質の低下」が33.9%など、すでに施設における食事サービスの質を維持のための取組では対応しきれずに、利用者の食事に影響していることが伺える。

食材料費高騰に対する施設の取組（対応している施設）

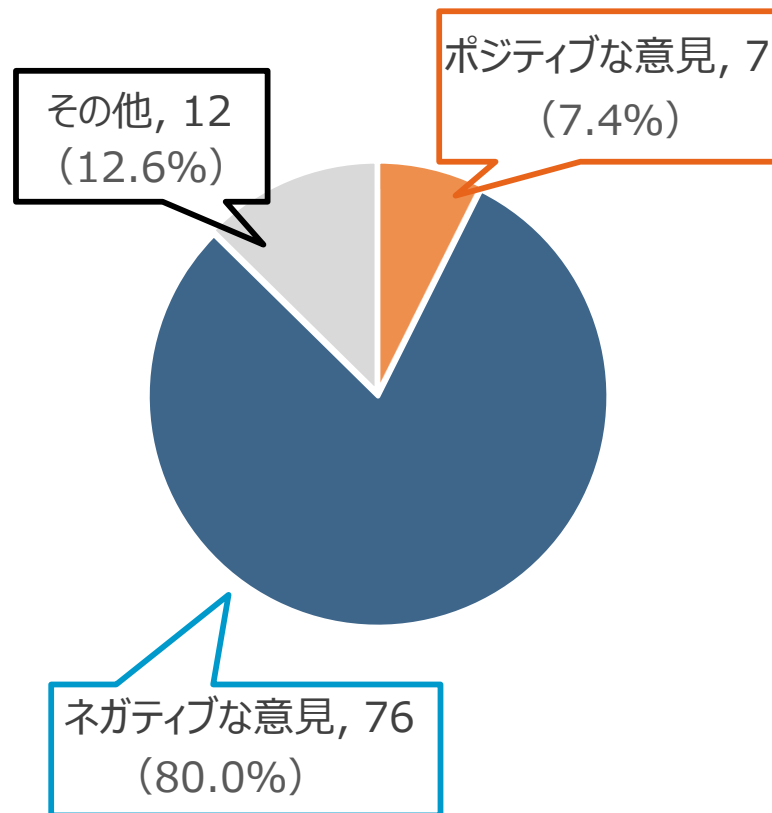
(n = 514)

(複数回答)



その他及び自由記述欄に記載いただいたご意見の概要

利用者及びご家族からの意見を分類 (n=95)



ポジティブな意見

- ・ 食事提供にあたり、利用者及びご家族からの苦情は今のところなく、多くの方から「満足している」「いつも美味しい」等の温かい声をいただいている。
- ・ 工夫によりバリエーションが多く喜ばれている。
- ・ 利用者からおいしいといったお声をいただいている。ご家族も食べる機会があり喜ばれている。

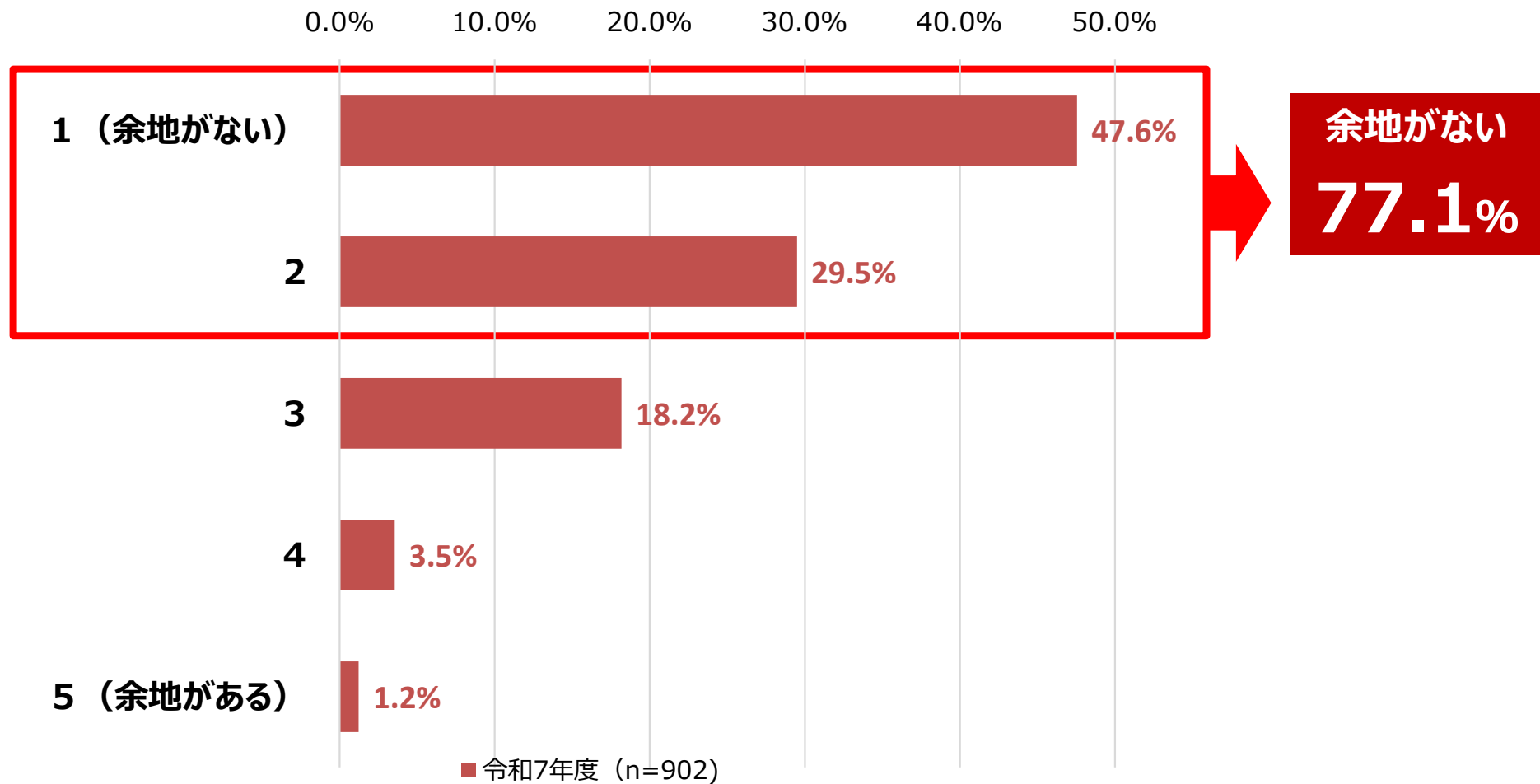
ネガティブな意見

- ・ もう少しお金を払ってもいいから日々の食事を良くしてほしい。
- ・ 肉や魚が小さい、もう少し食べたい。缶詰でもいいからもっと果物を食べたい。
- ・ 冷凍切身魚を使用して調理したものが、魚の種類によって生臭い。
- ・ 嗜好調査でいただく意見で厳しい言葉が多い。完調品が多く、味についても不評なものが多い。
- ・ おやつのだら焼きのサイズが小さいと言われた。
- ・ みそ汁のだしの効きが薄く感じる。お茶は味も香りも以前より下がった。手作りの料理がほとんど出ない…等の意見ある。
- ・ 食費とは別に常備菜などの個人負担が増えた。
- ・ 以前よりも物足りない感じであると言われた利用者も増えてきている。
- ・ 食事は楽しみの一つだと思いますので、少しでも充実した内容で提供していただければありがたいです。
- ・ 食事にもう一工夫して作ってください。魚料理も毎日同じような調理でなく、フライやみそ煮等、他にはカレーライス、麺類も多くしてください。

その他

- ・ 何とか創意工夫をする事で現状では特に苦情などは聞かれていません。
- ・ 食費の値上げに対し ご家族に説明をさせていただきましたが、特にご意見等はいただいております。
- ・ 家族より「個人によって食事形態が異なるが、物価高騰で食費があがれば一律で上がるのか。物価が下がれば金額は下がるのか」との意見があった。

食材料費が更に高騰した際の質を維持する余地の有無



本調査及び「食費（基準費用額）に関する調査」の結果概要

【食費（基準費用額）に関する調査】

- 消費者物価指数（総務省）の動向を見ると、食料は、2021年（令和3年）8月比で27.1ポイント増加している。食費の基準費用額は令和3年8月に1,392円から1,445円に引き上げる見直しが行われているが、令和6年度介護報酬改定では「経営実態調査の結果、食材料費の支出については全体として大きく伸びてない」として見送られた。
- 全国老協の調査では、令和7年6月の利用者一人1日あたり食費は1,787.6円（うち給食材料費が972.8円、調理員人件費が814.8円）であり、令和6年6月と比較して87.7円増加。一方で、食費の利用者負担額については、契約により定める利用者負担第4段階の利用者一人1日あたりの平均は1,561.9円であったが（第4段階の方の割合は32.2%）、調査回答施設の50.7%が基準費用額と同額の1,445円に設定していた。調査結果から、給食関連費用を試算すると、年間約1,000万円の赤字という極めて厳しい状況が明らかになった。（定員80人（特養+短期））

【特別養護老人ホームにおける食事サービス調査】

- 特養では食事介助が必要な方であっても食事を利用者の暮らしの中の大きな楽しみとして捉え、物価高の中でも満足度を維持したいと工夫を凝らした取組を行っているが、食事の質や栄養マネジメントへの懸念が生じている。全国老協の調査では、特養では利用者への影響が少ない取組で物価高騰への対応を行ってきたが、食事の質や量に影響する対応をせざるを得ないという状況に変化するとともに、特養栄養士からは、食事摂取基準の応じた食事提供が難しいという声も寄せられている。利用者からは、以前より物足りない、もう少しお金を払ってもいいから日々の食事を良くしてほしいという声もある。
- いまも価格の高騰に伴う影響が続いており、最低賃金は過去最大の全国平均66円引き上げられた。今後更なる高騰が見込まれる中で、本会調査では77.1%の特養が、これ以上質を維持する工夫の余地がないと回答している。



老施協
ViSiON 2035

老施協VISION2035

最期の一瞬まで、
自分らしく生きられる社会へ。



公益社団法人全国老人福祉施設協議会
Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service